

# 【石狩浜アクションプラン中長期目標について】

→かけはしプランで取り上げる必要がある項目

## ○生物多様性の保全

2040年までの行動目標	2030年までの行動計画	既存事業への位置づけ	2030年までのスケジュール ～2027年～2030年	該当ゾーン	
1) 植生管理により、良好な生態系を維持、劣化した生態系を再生する。	①知津狩浜と兼富原生花園で、植生再生に係る実証試験、事業化に向けた検討を行う。	○	●	○	知津狩浜・兼富原生花園
	②センター敷地で、効果的植生管理手法を検証する。	○	●	○	
	③植生再生、管理による保全について、地域へ向けた情報の発信、共有を進める。	○	●	○	
2) 植生遷移をモニタリングし、生態系の変化を把握する。	①親船地区で、海浜植物群落からススキ群落への遷移状況およびカシワ林への遷移状況をモニタリングする。		●	○	弁天・親船地区
	②植生データベースを作成する。		●	○	
3) 外来種が、海浜生態系に及ぼす影響を最小限に状態にとどめる。	①防除が必要な外来種を選定し、対策の内容を検討する。 ※アズマヒキガエル、外来低木類など	△	●	○	
	②防除対策を実施し、効果を検証する。	△	△	●	
	③地域に対して情報発信を行うとともに、市民からの情報収集体制を構築する。	△	●	○	
4) 希少種の現状の生息、生育状況を維持する。 ※絶滅危惧指定種だけでなく、縮小が懸念される群落等を含む。	①保全対策が必要な希少種や群生について、生息・生育状況をモニタリングする。 ※イソスミレ・イソコモリグモ・スナゴカイ（不安定帯の昆虫）・安定帯の昆虫・アカモズ・キタホウネンエビなど	△	●	○	
	②必要に応じて保全対策を実施、検証する。		△	●	
5) 動植物相の把握とリスト化を進める。	①植物、鳥類、昆虫、両生爬虫類、哺乳類に関するリストを整理する。		●	○	
6) 植生に急激な変化を及ぼす要因の影響を把握する。	①浜嵐及び汀線位置の変化を把握する。	△	○	○	
	②エゾシカの植生への影響を把握する。		○	○	
7) データ集積・管理、公開体制を構築する。	①植生データベース、動植物リスト、その他調査・試験報告書等を公開する。		●	○	
	②関係機関から関連する報告書を収集し、報告書に関するデータベースを作成する。		●	○	
8) 生態系の変化の検証を有識者会議で行う。	①各種データを有識者会議において検証し、優先事業の検討、計画の見直しを行う。		○	○	
9) 管理者との情報共有を進める。	①管理者と生態系保全に関する情報を共有する。	△	○	○	
	②管理者と連携した保全対策を行う。		○	○	

## ○持続可能な利用

10) 持続的観光利用のため景観の維持管理をする。	①はまなすの丘公園と無事の民周辺で、植生管理に関する課題を検証し景観保全を進める。	△	○	●	はまなすの丘公園・無事の民周辺	
	②兼富原生花園で、参加型景観維持作業の実証試験を行い、持続可能な形を検討する。			○	●	兼富原生花園
11) ハマボウフウの生育状況把握を進め採取管理を検討する。	①ハマボウフウの生育状況をエリアごとに把握、モニタリングする。		△	●	○	
	②ふれあい地区で、ハマボウフウの採取圧管理の実証試験を行い、採取圧管理を検討する。		△	△	●	弁天・親船地区
	③ハマボウフウの生態と再生可能な採取方法、ふれあい地区の利用に関するルールを普及する。		△	○	○	
12) 海浜地利用に関わるルールを普及する。	①管理者との情報共有を進め、利用管理についてのルールの統一、連携した普及啓発を進める。			△	●	
	②車両走行等が生態系に及ぼす影響をモニタリングする。			△	●	親船地区隣接地エリア・知津狩浜～無極浜

## ○情報共有・社会への意識検討

13) 海浜生態系に関するデータを、整理し、公開、発信する。	①ホームページにデータベース機能を設ける。			●	○	
	②定期的な情報誌の発行や展示等での掲示を行う。		○	○	○	
	③定期的にセミナー等を開催し対話の場を設ける。		△	○	○	
14) 学びや自然体験活動実施体制を強化する。	①海浜植物保護センターにおいて課外学習基盤を整える。		○	●	○	
	②自然体験活動を支援する。		○	○	○	
15) 参加型で保全活動を行う。	①生息・生育状況把握において、参加型調査体制を構築し、実施する。		△	△	●	
	②webを用いた市民による自然情報収集体制を構築、実施する。		△	△	●	
	③植生管理、外来種防除等保全対策を参加型で進める		△	○	○	
16) 持続可能な保全と利用の関係性を構築する。	①ハマナスの持続可能な形での利活用を進める。		○	○	○	
	②ハマナスをシンボルとした地域づくり活動を支援する。		○	○	○	
17) 保全事業に対する地域ニーズを把握する。	①保全に対する市民や利用者のニーズを把握する。		△	○	○	

# ○生物多様性の保全

2040年までの行動目標	2030年までの行動計画	既存事業への位置づけ	2030年までのスケジュール ~2027年	2030年	該当ゾーン
1) 植生管理により、良好な生態系を維持、劣化した生態系を再生する。	①知津特産と衆富原生花園で、植生再生に係る実証試験、事業化に向けた検討を行う。	○	●	○	知津特産・衆富原生花園
	②センター敷地で、効果的植生管理手法を検証する。	○	●	○	
	③植生再生、管理による保全について、地域へ向けた情報の発信、共有を進める。	○	●	○	
2) 植生遷移をモニタリングし、生態系の変化を把握する。	①親船地区で、海浜植物群落からススキ群落への遷移状況およびカシワ林への遷移状況をモニタリングする。		●	○	赤木・親船地区
	②植生データベースを作成する。		●	○	
3) 外来種が、海浜生態系に及ぼす影響を最小限に状態にとどめる。	①防除が必要な外来種を選定し、対策の内容を検討する。 ※アズマヒキガエル、外来低木類など	△	●	○	
	②防除対策を実施し、効果を検証する。	△	△	●	
	③地域に対して情報発信を行うとともに、市民からの情報収集体制を構築する。	△	●	○	
4) 希少種の現状の生息、生育状況を維持する。 ※絶滅危惧指定種だけでなく、縮小が懸念される群落等を含む。	①保全対策が必要な希少種や群生について、生息・生育状況をモニタリングする。 ※イソスミレ・イソソモリグモ・スナヨコバイ（不安定帯の昆虫）・安定帯の昆虫・アカモズ・キタウネンシビなど	△	●	○	
	②必要に応じて保全対策を実施、検証する。		△	●	
5) 動植物相の把握とリスト化を進める。	①植物、鳥類、昆虫、両生爬虫類、哺乳類等に関するリストを整理する。		●	○	
6) 植生に急激な変化を及ぼす要因の影響を把握する。	①仮置及び打線位置の変化を把握する。	△	○	○	
	②エゾシカの植生への影響を把握する。		○	○	
7) データ集積・管理、公開体制を構築する。	①植生データベース、動植物リスト、その他調査・試験報告書等を公開する。		●	○	
	②関係機関から関連する報告書を収集し、報告書に関するデータベースを作成する。		●	○	
8) 生態系の変化の検証を有識者会議で行う。	①各種データを有識者会議において検証し、優先事業の検討、計画の見直しを行う。		○	○	
9) 管理者との情報共有を進める。	①管理者と生態系保全に関する情報を共有する。	△	○	○	
	②管理者と連携した保全対策を行う。		○	○	

外来種について

案) 石狩市の生態系に影響の及ぼす恐れのある外来種について把握し、最小限に影響をとどめる。

▶ 緊急的に対策が必要な種については、有識者等の意見にヒアリングから対策を実施する。

□ 現事業

- ・石狩浜のアズマヒキガエル防除事業
- ・マルハナバチモニタリング

希少種について

案) 絶滅の恐れのある生きものについて、生息生育状況の把握し、必要に応じた対策を実施する。

▶ 緊急的に対策が必要な種については、有識者等の意見にヒアリングをし、アクションプラン等の必要な対策を実施する。

□ 現事業

- ・アカモズの郷いしかり希少種保全計画事業
- ・オオムラサキモニタリング

# ○生物多様性の保全

2040年までの行動目標	2030年までの行動計画	既存事業への位置づけ	2030年までのスケジュール		該当ゾーン
			～2027年	～2030年	
1) 植生管理により、良好な生態系を維持、劣化した生態系を再生する。	①知津狩浜と兼富原生花園で、植生再生に係る実証試験、事業化に向けた検討を行う。	○	●	○	知津狩浜・兼富原生花園
	②センター敷地で、効果的植生管理手法を検証する。	○	●	○	
	③植生再生、管理による保全について、地域へ向けた情報の発信、共有を進める。	○	●	○	
2) 植生遷移をモニタリングし、生態系の変化を把握する。	①親船地区で、海浜植物群落からススキ群落への遷移状況およびカシワ林への遷移状況をモニタリングする。		●	○	赤天・親船地区
	②植生データベースを作成する。		●	○	
3) 外来種が、海浜生態系に及ぼす影響を最小限に状態にとどめる。	①防除が必要な外来種を選定し、対策の内容を検討する。※アマモヒキガエル、外来低木類など	△	●	○	
	②防除対策を実施し、効果を検証する。	△	△	●	
	③地域に対して情報発信を行うとともに、市民からの情報収集体制を構築する。	△	●	○	
4) 希少種の現状の生息、生育状況を維持する。 ※絶滅危惧指定種だけでなく、縮小が懸念される群落等を含む。	①保全対策が必要な希少種や群生について、生息・生育状況をモニタリングする。※イソスミレ・シロモリグモ・スナヨコバイ（不安定帯の昆虫）・安定帯の昆虫・アカモズ・キタホウネンエビなど	△	●	○	
	②必要に応じて保全対策を実施、検証する。		△	●	
5) 動植物相の把握とリスト化を進める。	①植物、鳥類、昆虫、両生爬虫類、哺乳類に関するリストを整理する。		●	○	
6) 植生に急激な変化を及ぼす要因の影響を把握する。	①浜崖及び消線位置の変化を把握する。	△	○	○	
	②エゾシカの植生への影響を把握する。		○	○	
7) データ集積・管理、公開体制を構築する。	①植生データベース、動植物リスト、その他調査・試験報告書等を公開する。 ②関係機関から関連する報告書を収集し、報告書に関するデータベースを作成する。		●	○	
8) 生態系の変化の検証を有識者会議で行う。	①各種データを有識者会議において検証し、優先事業の検討、計画の見直しを行う。		○	○	
9) 管理者との情報共有を進める。	①管理者と生態系保全に関する情報を共有する。	△	○	○	
	②管理者と連携した保全対策を行う。		○	○	

リスト化について  
 案) 石狩市の生息、生育リストを関係団体、機関から情報を収集し整理する。  
 ▶文献、報告書の収集、文献調査によるリストの作成。  
 ▶公開のためのルールを整備。  
 ▶調査、試験報告書等を公開する

生態系の変化の検証と共有  
 案) 石狩市の自然環境の変化に伴った生態系の変化について、有識者との協議の場を設け、その意見等を他の管理者間に共有する。  
 ▶有識者に意見を聞ける体制構築  
 ▶各種データを有識者会議において検証し、計画の見直し。  
 ▶検証した結果等について管理者と共有をして事業を進める

○情報共有・社会への意識検討

13) 海浜生態系に関するデータを、整理し、公開、発信する。	①ホームページにデータベース機能を設ける。		●	○	
	②定期的な情報誌の発行や展示等での掲示を行う。	○	○	○	
	③定期的にセミナー等を開催し対話の場を設ける。	△	○	○	
14) 学びや自然体験活動実施体制を強化する。	①海浜植物保護センターにおいて環境学習基盤を整える。	○	●	○	
	②自然体験活動を支援する。	○	○	○	
15) 参加型で保全活動を行う。	①生息・生育状況把握において、参加型調査体制を構築し、実施する。	△	△	●	
	②webを用いた市民による自然情報収集体制を構築、実施する。	△	△	●	
	③植生管理、外来種防除等保全対策を参加型で進める	△	○	○	
16) 持続可能な保全と利用の関係性を構築する。	①ハマナスの持続可能な形での利活用を進める。	○	○	○	
	②ハマナスをシンボルとした地域づくり活動を支援する。	○	○	○	
17) 保全事業に対する地域ニーズを把握する。	①保全に対する市民や利用者のニーズを把握する。	△	○	○	

7~9に統合?

普及啓発について  
 案) 数少ない石狩市の自然について、郷土を守りたいと思える気持ちを醸成する。  
 ▶ オンラインを用いた市民参加型調査  
 ▶ 情報の公開・発信

○その他

- ・ 野生動物との衝突  
 例：ヒグマ、エゾシカ、野鳥
- ・ 自然エネルギーとの関係  
 例：最低限の生息地確保